

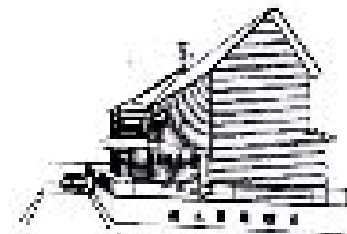
<今朝の聖書から>

今朝のテーマは「鏡」です。鏡の特徴は、姿や形を映すことや光を反射することです。私たちは、身だしなみを整えるために毎日鏡を見ます。他の人に見られることを意識しているからでしょう。そこで、今朝は、鏡が出てくる聖書の箇所を二ヶ所開いてみましょう。一ヶ所目は、ヤコブの手紙 1 章 23,24 節です。御言を聞くだけで行わない人の、たとえで用いられています。このような人は「自分の生まれつきの顔を鏡に映して見る人のようである。そこから立ち去ると、そのとたんに自分の姿がどんなであったか忘れてしまう。」次の 25 節に注意しましょう。「これに反して、完全な自由の律法を“一心に見つめてたゆまない人”は、聞いて忘れてしまう人ではなくて、実際に行く人である。…」二ヶ所目は、コリント人への第二の手紙 3 章 18 節「わたしたちはみな、顔おおいなしに、主の栄光を鏡に映すように見つ、栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていく、…」ここでは、前の 16 節に注意しましょう。「しかし“主に向く時には”そのおおいを取り除かれる。」ここで、一心に見つめてたゆまない人と、主に向く人は、いったい、何を見ているのでしょうか。？この二ヶ所には、古い律法(契約)と新しい律法(契約)が比較されています。新しい律法は、モーセが顔におおいをかけたような(栄光がやがて消えて行くような)不完全なものではなく、キリストによってその、おおいが取り除かれた完全な自由の律法だとパウロは言っています。それでは、どこが完全なのでしょう。私たちが告白する使徒信条のとおり、父と子の関係により結ばれた契約は愛の契約であり、それを守り実行する力も神が与えてくださるというものです。最初に、鏡を見るのは人に見られるのを意識するからです。と言いましたが、今朝の聖書の箇所 3 章の前半に「あなたがたはキリストの手紙である」3 節とあります。私たちは自身がキリストのメッセージを託された手紙だということです。それは、私たち一人一人がキリスト(教会)の広告なのです。読まれ、そして見られているということです。クリスチャンの栄光とはキリストを見つめつつ人生を歩むことでしょう。顔おおい(罪)なしに、主の栄光を鏡に映すように見つ、やがて主を反映する者とさせていただきます。これは聖霊の働きによるのです。信じましょう。

(大石兄)

週報

2010年 2月 28日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042